

週刊 武四郎

第33号

2018年(平成30年)11月21日(水)
発行・松阪市

●毎月第三週は、
松浦武四郎のお友達に
についてご紹介します

監修・松浦武四郎記念館

風月堂との関係

松浦武四郎さんは晩年、なぜか天神様を信仰していました。菅原道真は二十五日に生まれて二十五日に亡くなったので、武四郎さんは、この二十五にちなんで全国の天神様を二十五個選び、神鏡を奉納しました。

現在もその二十五枚の神鏡は拓本によって残されていますが、その中の施主に「東京風月堂清白」という名が見えます。そのほか『松浦武四郎自伝』にもよく風月堂の名は出てくるのです。たとえば武四郎さんの養子は、加納夏雄という当時最も有名な彫金家に入門しています。が、その時の紹介者も風月堂でした。

風月堂……そう、あのゴーフルというお菓子で有名な店です（今は暖簾分けしてあちこちに風月堂がありますが、上野風月

堂が江戸から続いている店のようです。正しくは「風」ではなく「風」という字を使った店のロゴは、武四郎さんとも仲の良かった書家の市河万庵のお父さんの市河米庵が揮毫しています。

さて、私は古い書物の中に面白い記事を見つけました。

「水野のおツ母さんといふものは、風月堂

の娘です。こ

の娘が、水野

和泉守忠光、

即ち越前守忠

邦の先代の御

妾に上がつて

その腹へ出来

たのが有名な

水野越前守な

のですから、

随分近い間柄

である。（略）風月堂は水野の高等探偵だといふので、江戸市中をびりびりさせた」驚いたことに、風月堂は天保の改革の時の老中水野忠邦と密接な関係があったのでした。

そこで思い当たるのは全国放浪中の武四郎さん、実は天保六年の五月から九月まで江戸に出ていてこの水野忠邦の奥向きに奉公し、そして何をしでかしたのか「立身の形も相見へ候処、若気の麁々にて」失敗し、なん

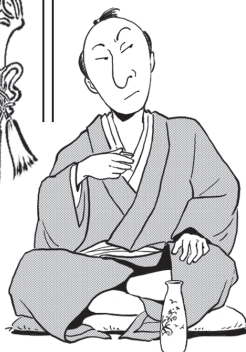
と高野山で頭を丸めているのです。十八歳の時のことでした。

放浪少年が、なぜ時の老中の奥向きに奉公できたのか不思議だったのですが……風月堂が絡んでいたとしたら、と考えるところと点が一本の線として結びつくようです。さらには、その後の武四郎さんの情報活動にも、この隠密活動で老中を支えた風月堂の存在があったのかもしれない。武四郎さんとゴーフル、想像は膨らむばかりです。



▲画・杉井ギサプロー
新潟日報「お江戸じよんのび便り」より

松浦武四郎 (1818～1888)
三重県松阪市出身。幕末から明治にかけての探検家、著述家、蒐集家。蝦夷地（今の北海道）を6度にわたり探査し、アイヌの人々と交流を深め、蝦夷地の詳細な記録や地図を作成した。維新後、蝦夷地に代わる新たな名称として（北海道）のもととなる（北加伊道）を含む6案を政府に提案したことから（北海道の名付け親）と称される。



文・河治和香 装画・りんたろう 編集・細山田正人 デザイン・DOMDOM

●松浦武四郎を主人公とした小説『がいなもん 松浦武四郎一代』（河治和香著）が、小学館より好評発売中！